



『鬼の面』2004年
陶土、釉薬
465×477×218mm



『鬼の面』1987-90年
陶土、釉薬
397×389×202mm



『鬼』1987-90年
陶土、釉薬
167×640×291mm



(個人提供写真)

伊藤 喜彦 Yoshihiko Ito

1934年~2005年/滋賀県

伊藤さんは30年間にもわたって多くの個性的な粘土作品を制作しました。初期の頃から、たくさんが目玉のような突起物でおおわれた独特の作品を、毎日止めどなく作り続け、不気味なほどの迫力と、ユーモラスな味のある作品たちは、彼自身のキャラクターそのものようでもありました。後年の作品は彼自身によって鮮やかな釉薬の色付けもなされ、その独特で強烈な個性は一層きわだっていました。

若い頃の彼は、何かと制限されてしまう施設暮らしの不自由さへの不満があったようです。そんな折、日々の作業とは区別した日曜日の午後、1人の施設職員が自主的にはじめた自由作陶の時間ができたのです。彼は当初から熱心に参加していました。もともと、旺盛なエネルギーの持ち主で、そのあり余るほどの激するエネルギーを何とか発散させたかった彼に、粘土造形

はうまく合致したのかもしれません。施設の陶芸室の片隅に自分の居場所を作って居座り、時には途中で眠ってしまったり、その制作は他を寄せ付けない奔放さにあふれていたようです。若い頃に頻発していた施設からの逃亡癖は、老年期になってさすがになくなりましたが、独自の生活スタイルへのこだわりは一向に衰えず、施設職員も含め誰もが一目置いていました。

「鋭さとやさしさがにじみ出る彼の作品には、同時に、怒りと愛が混じり合った“毒”が含まれている」と、アーティスト田島征三氏は評しています。彼の作品が放つ、のたうつような情動に魅了される人は多く、彼は70歳で突然死去しましたが、多くの逸話と作品が残されています。



『鬼の顔(土鈴)』
1987-90年
陶土、釉薬
496×258×392mm

伊藤 喜彦